

## 会議記録

会議件名	令和2年度 第1回掛川市子ども・子育て会議
日 時	令和2年10月20日（水）13:30 から 15:30
場 所	掛川市役所本庁舎4階会議室1ABC
出席者	子ども・子育て会議委員 17名（2名欠席） 事務局 16名 企画政策課（総合計画担当） 1名

### 会議の概要

1 開 会

2 あいさつ

～会長より挨拶～

3 新委員紹介

～名簿により事務局より紹介～

4 委員・事務局紹介

～名簿順に委員、事務局の順で自己紹介～

5 報告事項

資料1、2により事務局から説明 → 意見無し

6 協議事項

資料3により事務局から説明 → 意見無し

7 意見交換

（事務局）

資料9ページをご覧ください。協議資料といたしまして、委員の皆様には、9ページにある資料を事前に配付させていただきました。

この資料の冒頭部分に記載のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響は、多岐にわたり、三密回避等、新しい生活様式に基づいた活動等が求められています。

また、こちらの資料では、ポストコロナ時代と記載させていただきましたが、現段階では、効果的なワクチンや薬の使用が認められていないこともあり、コロナウイルスとの共存、ウィズコロナとも言われていますが、これにより各種子育て施策を実施していかなければなりません。

今後、どのように子育て施策を実施しなければならないか、先が見えていない状況でありますので、皆様の忌憚のない意見をいただき、子育て施策等を実施していく際の参考にさせていただきたいと考えております。

会議をスムーズに進行するために、事前に皆様から貴重な意見をまとめさせていただきましたので、紹介させていただきますが、類似しているような内容については、まとめさせていただいたため、ご了承ください。

それでは、課題を読み上げます。資料の10ページをご覧ください。

まず、課題1といたしまして、経済状況の悪化により出生数が減少し、少子化が加速する場合は考えられるが、0歳児人口を維持、もしくは増加させるために必要な施策は？について、市の方針ですが、①保育園、認定こども園などの整備による待機児童対策を進める。②幼児教育・保育の質を確保するためにも保育士等の就職支援を長期的に行う必要がある。③公共施設再配置計画を踏まえた、公立幼稚園のあり方の検討を進める、としております。

皆様の意見としては、施設整備に関して、1つ目の国定義の待機児童は減少しているので、施設整備の効果は現れている。一方で、施設整備の具体的な内容の部分で、3番目及び4番目の感染症に強い子育ての環境をつくる、安全に遊べる場や母親たちが安心して集える場所の確保が必要であるといった整備内容の部分で意見がありました。

次に、慢性的に不足している保育士については、1つ目、2つ目の保育士の就職支援や処遇改善を行うことにより確保を図るという意見をいただきました。また、3つ目や5つ目にあるように保

育士の質を高める施策が必要であるとの意見もいただきました。

次に、経済的支援としては、2つ目、5つ目、6つ目として市独自の出産祝い金等の支給に関する意見が多かったです。

その他の意見としましては、子育てのみにかかわることではありませんが、掛川市は新幹線の停車駅、東名高速インターチェンジがある等の交通の便の良さを利用していくことができるのではないか？との意見もいただきました。

課題1に対しては、以上となります。

(会 長)

特に順番は決めませんので、各項目について、皆様から忌憚のない意見をいただき、これからの子育て施策の参考にさせていただいたらと考えております。

いかがでしょうか？

(委 員)

私の意見としては、資料に掲載いただいたのですが、施設整備や保育士対策については、市で既に尽力していただいていると思います。

ポストコロナ、ウィズコロナの中で、経済状況の悪化が0歳児人口を減らすであろうという観点から意見を述べさせていただいたのですが、この環境の中で若者が就労できない状況があり、また、収入が減り経済面で困窮する家庭が、ブルーカラーと呼ばれている労働者を中心に発生すると考えられます。

そのような中で、産む選択を出来ないまま高齢出産を迎えるというような状況が出てきますので、そのような状況にならないために、少しでも掛川市でカバーできるような制度が出てくればと思います。

出産祝い金を掛川市独自の政策として第1子から支給することをアナウンスできれば、袋井市に住む、愛野に住む等で迷っている方に対して、きっかけとなり掛川市に集約できるのではと思いました。

また、その後も繋がっていきますが、掛川市は新幹線の停車駅となっているアドバンテージを活かして、静岡市への通勤圏ともなることができます。そのような家庭を引き込むことが可能であり、そこに、第1子から祝い金も出ることであれば、他市より魅力的となります。

さらに、具体的な施策はわかりませんが、小学校入学前までが、他市に転居する家庭を引き込むことができるチャンスの期間であります。

保育園時代は、どこの保育園に通ってもいいため、割と他の市町に転出する可能性がある時期であるのですが、小学校入学時に居を構えると、そこから先に、市外に転居することは、なかなか考えにくいので、そこまで勝負なのではないかと思い、その時期までに人を集められるような施策を実施できるといいのではないかと思います。

(委 員)

今日の前段階で、具体的にどうしたらいいだろうと皆様が考えていて、私も意見を上げさせていただきましたが、0歳児をどのように増やしていけるのか？というのは、掛川市にとって大きな問題であると思います。市では、この意見をどのように反映し、どの位の予算で考えているのか？

意見をどう予算に反映させていくのかを知ることにより、委員の皆様が、これがいいのではないかと方向性を考えることができる。今年度、あと1回しか会議がないため、その考え方を教えてもらいたいです。

(事 務 局)

御意見ありがとうございました。

総合計画については、先程申し上げたとおり、企画政策課を中心に作業を進めていますが、現状は、ポストコロナとして、どのような課題があるか、どのような事を進めなければならないか、情報を収集しているところであります。それらを、庁内の組織の中で検討して、どういった施策が出来るのか、施策を決める前に、最初の段階で、市の目指す方向性を決めていくこととなります。

それを総合計画審議会で、委員の皆様にも色々な意見をいただきながら、まずは、計画案、方針

案を作成し、パブリックコメントにより、市民の皆様の意見をいただいて、議会にも報告して決めていく事になります。

そのため、今日いただいた意見が、そのまま予算化される訳にはいきませんが、皆様からの意見が、市民の皆様からの意見として、必ず計画のどこかに反映されることになると思いますので、全てが反映される訳ではないかもしれませんが、そういった御意見をもとに、方針、施策を決めていくこととなりますので、ご理解いただきたいと思います。

(委員)

先程、委員がおっしゃったように、出産までのサポートには、経済的な支援が必要だと感じています。

私は、不妊治療への経済的負担と書かせていただいたのですが、国でも話題になっていますが、不妊治療はとてもお金がかかります。知り合いでも何人か不妊治療を行っていますが、すごく経済的な圧迫を感じ、途中でお金が続かなくなって諦めたという方もいます。

不妊治療を、掛川市独自で何か補助等していただけると、出生率の増加に貢献できるのではと思いました。

それと、もう一つは、出産後のサポートです。出産後のサポートは重要だと思います。

一つは、保育園の入園ですけど、その他の2つ目に書かせていただいたのですが、正規雇用と非正規雇用で条件が違います。非正規雇用ですと育児休暇がとれない企業があり、育児休暇がとれないと、産後3ヶ月で退園しなければなりません。一度退園してしまうと、非正規雇用だと次の就職がいつになるかわからないため、入園するために求職活動をするのですが、小さい子どもを預けて、求職活動をするため大変困難です。

求職では、入園が決まれば就職できるし、保育園では仕事が決まったら入園できると、たちごっこになってしまい、どちらか決まらないと働くことが出来ないと、苦しんでいるお母さんが多いです。ですので、正規であっても、非正規であっても産後の退園までの時間を同じようにしてあげるとするのは一つの考えであると考えています。

それから、安全に遊べる場や、母親達が安心して集える場と書かせていただいたのですが、実は、うちの職員で子育て中の職員に色々聞きましたら、藤枝市の方でキッズパークという所があるそうです。

そこは、色々な遊具がありまして、常駐している職員がいるということで、母親達の悩み、育児相談や、ちょっとした心配事もそこで相談できるという施設とのこと。袋井市にある中央子育て支援センターという所は、職員が常駐し、相談に乗ってくれるということです。掛川市には、子育て支援センターは、園によって持っているところもありますが、そういった誰でも気軽に来れるような、遊びのついでに悩みを相談できるような場所が無いですね。

掛川市にもそのような施設を作っていただけると、私達の子育て時代には、おじいちゃんやおばあちゃん、近所の方が、おせっかいを焼いてくれたので孤独を感じたことはありませんでしたが、今、核家族化して、しかも、うちの保育園に通っている保護者の方には、東京から転勤していて、親の手助けは一切してもらえないといった孤独の中で仕事をしなければいけない、保育園だけではとてもバックアップしきれないことがありまして、ファミリーサポートもどれくらい充実しているかわかりませんが、そういった保育園以外のところのバックアップが必要であると考えます。

そういった所が整わないと、子どもを産んで仕事をしようとする気持ちにはならない、また、0歳児を産み育てる気持ちにならないと思いますので、そこをお願いしたいと思います。

(委員)

この、課題1に書かれているポストコロナですが、経済状況の悪化とこじつけて書いてありますが、出生数の減少という課題は、コロナに関係なく、ずっと前からあった問題であります。

コロナだからではなく、もう既に考えていなければならない課題で、一つには、先程、委員がおっしゃった事で、子どもを育てる親が相談できる事が必要です。

コロナにかこつけて色々な施策を考えるのは必要であるし、大切な事だとは思いますが、現状あるものを削って、コロナでやりました。というのは勘弁していただきたい。例えば、子育ての予算は様々で、当然お金がかかっているの、どこかで予算をカットしなければならないのですが、例えば、子育て支援センターの今年の予算は、全施設で運営費の10%減額です。

おそらく、コロナの影響で、そこら中から予算をかき集めなければならなかったとは思いますが、そこで、予算を削ります。そこで生み出した予算でコロナのために何かやります。というのは何かちぐはぐです。

確かにコロナのために何かやったというのは、ネームバリューがあって、やった感があるのは確かです。しかし、その影で削られてしまっているものがあるのです。そういうところが、ちぐはぐしています。

私は、支援センターは、非常に大切な施設だと思っています。

よく、乳児の対策というと保育園を増やす、定員を増やすと言われますが、就園率は5割を超えています。しかし、4割位は、まだ家庭で育てているところがある。支援センターというのは、このような人達が通う場所です。ですから、保育園にはお金を投入するけど、家で子どもを育てる人達には、何もお金を投入していないという現状です。

ですから、その4割の人達に、どういった手立てをするのか、市の施策には、具体的にそれが出していないです。保育園整備という記載はたくさんあるのですけど。

私たちにとってはありがたい話ではあるのですけど・・・、でも、その辺のバランスをとりながらということです。

今、育休の制度が各企業で頑張ってもらっていて、かなりの割合で取得してきている。そうすると、そこで0歳児の育休を取った人達は、支援センターに行くわけです。そのような人達が子育てをしやすい、お金はないよりあった方が確かにいいです。しかし、お金があっても、相談できるような場所がなければ、何もならないです。

お金も必要であるが、そのような所をどのように考えていくかが大切です。

支援センター1箇所の運営費が年間700万円から800万円ですが、100万円ですまホ等を用意すると、確かに魅力的ではございますが、センターの分が蔑ろにされている現実を考えると、何か違うような気がしますよね。

その辺を是非、コロナという理由だけで考えるのでは無く、元々やっている子育ての施策を充実させる事を考えていただけたらと思います。

(副会長)

今、皆様の意見を伺って、0歳児を増やす元の、その前の時点で、妊娠期のケアとか、その前の婚活のケアとか、どんどん遡ってしまうのですけど、掛川市は切れ目のない子育て支援をするという事で、やはり子育て支援センターも、0歳児からいると思います。

児童館も0歳児から受けていて、数年前から交流館では妊婦さんを対象として授業を開催しているのですけど、なかなか、児童館に妊婦さんが来るというイメージがわかないみたいで、応募する方は少ないです。

しかし、実際に参加された方は、妊娠期の不安を先輩のお母さんと情報交換しながら、出産に臨むようになります。

また、実際に子供が生まれたら、児童館へ来て、色々なお母さんと情報交換しながら繋がっていくのですけど、委員が言われたように出産の時期は、心のケアが一番大事なのではと思います。

児童館は、お母さん方が気軽に相談できる場所を目指していますが、コロナでしばらく閉館等して、お母さんが家に閉じこもって何も相談できない時期があったので、スマホを設置して電話での相談を受けようとしたのですが、やはり対面での相談をしたいとの事で、電話での相談は1件もありませんでした。

このような心のケアをするには、お母さん方の居場所となる施設が必要になってくると思いますので、お母さん方がリフレッシュしたり、楽しんで子育てできるように支援していきたいと考えてきておりますので、これからは、妊娠期等の部分に厚く支援していただけたらと思います。

(会長)

電話ではなく面と向かって話がしたいということですが、今、一番大切な部分が、密となって危ないという言い方をしますが、例えば、少し距離を置いて話す等、具体的に何かコロナを意識してやってみたという事例がありますか？

(副会長)

普段から、児童館へ来館するお母さん方と話をしますが、世間話から、本当に重要な悩みがある方は、表に出しにくい。

児童館は、最初の窓口で、色々なお母さんと話をしたり、子供をみたり、職員と話をしていく中で、自然と悩みを引き出すには、対面して話をする中で信頼感が生まれていくことが必要です。

重要な悩みになる前の段階で相談を受けていましたが、やはり、コロナの時期で、警戒をし来館できなくて、6月から開館したら、お母さん方が来館するようになりました。その間、子どもと耐えて家にこもっていたと愚痴が出てきたので、職員が寄り添って聞いてあげて対応した。

お母さん方は、聞いて欲しいという気持ちが強く、聞いてあげることで、次の日から、子育てを頑張ってくれるかなという思いだった。

相談の回路というところを目指しているものですから、そういった所を目指し、その中で予防になるというか、事例にならないかもしれませんが、悩みが解決していくという形で相談を受けています。

(委 員)

今の意見は、課題3そのものではないかと思われま。

1と3はリンクしているので、今の意見は課題3の意見ということでしょうか？

(会 長)

そうですね。その他は、いかがでしょうか？

(委 員)

出生率とか0歳児とかの課題ですけど、意見として保育士とか施設整備の問題でお願いした事があるんですけど、保育士の3番目の所で、幼児教育・保育の質の確保につながるため、研修や実践を積める環境が必要であると記載がありますが、現在、掛川市の乳幼児教育未来学会の中で研修を行って、色々意見が出ていますんですけど、職務改善につながるような研修制度をしっかりとって欲しいなど、先日の部会で意見が出ました。

また、先程、委員がおっしゃったとおり、如何に既存の政策の中で考えていって欲しいと思います。

先程の藤枝市のキッズパークに、私も行ったことがありますけど、移転した高校の体育館を改装した施設だったと記憶しておりますけど、市の方針で、公共施設再配置計画を踏まえた公立幼稚園のあり方の検討、とありますので、そのような形でうまく活用できるように検討してくれたらと考えております。

コロナの影響で、色々考えていかなければならないのはわかりますけど、やはり、今まで進めてきた現在の施策を進めていって欲しいと思います。

(会 長)

ありがとうございます。

現在、課題1ということで意見をいただいておりますけど、課題2、3にも関連してくることが多いので、事務局の方で2と3について説明をいただいて、その後、全体の中で意見交換するという事でもよろしいですか？

(事 務 局)

それぞれの課題は、分断されているものではなく、例えば出生数が、子育て支援に関係しておりますし、課題上で分けてはいますが、当然、課題同士がつながってリンクしていると考えておりますので、課題2・3を続けて説明させていただいて、その後、皆様から意見をいただくという事でよろしいでしょうか？

(会 長)

お願いします。

(事 務 局)

それでは、課題2・3について、皆様から出た意見を続けて説明をさせていただきます。

課題2につきまして、新しい生活様式の実践により、テレワーク、リモートワークなどが進み、大都市圏一極集中から地方への人の分散が図られるが、掛川市として出来ることは、ですが、市の方針（目指すところ）としては、①子育てに優しい事業所づくり認定事業の推進など、仕事と子育てを両立できる環境の整備を図る。②男性の家事・育児参画の促進を図る。③第3子以降の出産、子育てに対する経済的支援による出生率の向上を図る、としております。

その中で、委員の皆様から多かった意見としましては、黒丸でまとめさせていただき、一番上の、企業の協力の必要性の部分に多くの意見をいただきました。1つ目の育児休暇の延長を企業に協力してもらい、3つ目の残業を減らす方法を提案するといった企業の労働者に対する協力や4つ目、6つ目のリモート環境の整備が必要との意見が多かったです。

その下になりますが、男性の子育てへの意識改革として、進んでいない男性の育児参加等を広報等で紹介し、男性の意識改革をしていくことも大事であるとの意見をいただきました

それでは、続いて14ページをご覧ください。

課題3ですが、市民意識調査では、子育てに関する悩みを相談できる人や場がないと感じている方が多い。コロナの影響により外出等が制限され、今後このような不安は、より増大すると考えられるが、それらの悩みを解決する具体的な施策は、についてですが、市の方針として目指すところですが、①地域等の支援により安心した妊娠・出産、子育てできる環境を整備（リモートでの相談対応や、スマホを活用した情報配信等により子育て世帯の孤立を防ぐ仕組み）を行う。②子育て総合サイト「かけっこ」の機能充実を図る。とさせていただきます。

これにつきまして、皆様の意見としましては、現在の事例等で、3つ目にありますが、「かけっこ」により、詳細にわたる子育て支援ができていると意見をいただきました。

その下になりますが、三密回避の必要性があるとの意見の中で、1つ目の括弧の中のズーム等の利用の必要性があるとの意見もありましたが、先程、委員の皆様から意見をいただきましたが、2つ目に記載されているとおり、密を避ける形で、実際に対面でのコミュニケーションを図ることができる場の提供が必要であることもいただきました。

その下です。こちらも、先程、委員の皆様からいただいたとおり、妊婦から子育て支援センターを利用できるような仕組み作りを、産院、保健センター、子育てセンター、地域に、地域一体となっていくことが大切であるとのこと。

また、3つ目の夜遅くまで気軽に電話できるような相談機関、窓口の設置、次のページの7つ目に記載のある、子育て支援センター等が、相談を待つのではなく、子育て支援センター等が積極的に訪問を行うこと、相談窓口の充実化の意見もありました。

その下です。結婚支援として、0歳児人口を増やす入り口である婚姻数を増やす施策を実施していく必要があるとの意見もいただきました。

最後に、その他としては、4つ目のコロナにより逆に家庭での触れ合いを見直す機会になったのでは、これを機に外出の楽しみだけでなく、家庭での楽しみ方等を発信するのも良いのでは、という意見もいただきました

課題2と3を続けて説明させていただきましたが、説明は、以上となります。

(会 長)

それでは、課題1から3までを通して、意見交換をできるようになりますので、皆様の方から、出してもらったものに対しての意見でも、新たな意見でも良いので、また、1から3以外のものでも構いませんので、いかがでしょうか？

(委 員)

私も初めてで、今までの流れがわかりませんが、ここで話す内容の効果があつたのか、次のステップに繋がると思うので、気になります。

また、我々の会社は、時短勤務が採用されており、女性でも男性でも6時間で働く、ということが認められています。企業によっては、そういう所に行き届いていないこともあるのかと思いますので、そういった所に行政から支援してあげたらどうかと思います。

あとは、私も7歳の子供がおりまして、校長先生がおられる佐東小に通っているのですが、先日、

初めて運動会に参加させていただいたのですが、そこで、色々なお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんと話をさせていただいて、大変盛り上がりました。

やはり、子どもが頑張っている姿を見るのは、すごく大事で、それを応援するお父さんやお母さん、保護者等がいて、そういった環境がある事がとても大事で、私の小さい頃は、農協の開催する運動会や地域の運動会と、運動会ばかりやっていたような感じでしたが、そういうことが、今、減ってきてしまっているため、人と会話する機会が減ってきている。

また、朝、子供を送って行く際に、毎日、中学生とすれ違い、その女の子がいつも挨拶をしてくれるのですが、私の方が恥ずかしくて、小さい声でしてしまう。

今、大人が挨拶をしなくなってしまうのではないかと、やはり、挨拶がコミュニケーションの基本であるため、大人が挨拶できるよう啓蒙していくのが大事と、自分自身振り返りました。

今、田舎に住んでいるのですが、どこに住むか迷った結果、親の近くに住むと子どもを預けられるため、親の近くに住んでいます。田舎だと公園が無いです。公園が無くて、子供をどこに連れて行こうか迷って自転車でそこら中、走り回っています。

やはり、市から外に出て行かせない、今いる所に残らせることが大事になり、人口減少に歯止めをかける事になる。住みやすい環境整備、ちょっとした遊べる環境を作っておくことも効果があるのではと思います。

先程もありましたけど、男性が育児に参加できる環境を整えるようにする。私の職場でも、男性で育児休暇を取得する職員も徐々に増えてきてはいますが、やはり圧倒的に少ない。そういった所に行行政がどこまで出来るのかは難しいですけど、企業がそれを実施しているところを支援、チェックするように、目を光らせるようにしていくことも必要ではないかと思っています。

また、私は掛川市に長く住んでいますが、新幹線もありとても便利で、高速道路のインターチェンジもありインフラが整っている。

さらに、今、パソコンがあれば、どこでも仕事ができる。Wi-Fi 環境があれば、仕事はどこでも出来るため、とても便利である。出張したときも Wi-Fi ばかり探してしまうので、そのような環境を作ってあげることが大切であると思います。

#### (委 員)

今回の課題として、3つ上げられた課題の中で、1番と2番については、経済政策、貧困政策であるため、掛川市の総合計画の中で位置づけられて議論していただくものであると思います。その中の子供に関する部分ということで、具体的にしていけば良いと思います。

また、前段で、支援センターの話があったのですが、掛川市は、外国人の方が非常に多くなっていますので、そういった方々にも特化する形で、経済活動にも参加していただくという点においては、支援センターの中にプログラムを入れ込んで、子供と一緒に育てていくこと概念を持ち合わせる必要があるのではないかと思います。

それから、特に出産の前後において不安を抱える方が多い。例えば実家が遠い。核家族である。母子施策であるとか、そのような状況が増えていると思います。

そのような方に対して、訪問型という仕組みを作っても良いのでは、例えば老人関係だと、ヘルパーであるとか、相談で介入することがあります。市でも様々な施策がありますが、産前産後に特化したような形でヘルパーさんにも入ってもらえるのが良いのではと考えました。

あと、やはり人口を増やすという点においては、若い人口が定着して住み続けるという社会作りが必要ですので、一度、学生で首都圏へ出た方々が、掛川市に戻ってきたいと思えるような社会作り I ターン、U ターンが見られるような掛川市を作らなければならないと思っています。

経団連でも示したポストコロナを展望して、とありましたが、その中でも首都圏からの分散と言われておりますので、掛川市でも学生や一定期間首都圏で働いた方を呼び込んで、生活して子供を育てられる地域となるような施策を打ち出すことが大切であると思います。

#### (委 員)

先日、我が家の孫が1週間ぐらい発熱しました。そうになると、子どもの面倒を見るために、誰かしら仕事を休まなければならない状況となり、順番で休みを取って、子どもの面倒を見ることになりました。その時は、下の子だったのですが、以前、上の子が調子が悪いときに、病児クリニック

をやっていて預けることができた。

帰ってきてから、ノートを見せてもらったら、時間どおりに検温をしてくれたり、お医者さんも観察してくれたりして、家にいるよりも安心して観てもらえたという話になりました。

やはり、仕事をしていると続けて休めない状況にある人が多いので、病児保育がもっと出来るといいと感じた。何かあった時に観てもらえる場所があるだけで、子どもを産む気持ちになるのでは、ないかと思えます。

先程、委員からありましたが、現在、家庭で子育てをしている人がいます。

保育園は、無償化になっており、また、「GO TO EAT」や「GO TO TRAVEL」等の色々な支援策ありますが、家庭で子育てをしている人への政策は何もありません。

行ける人は良いですけど、行けない人はテレビでその様子を見ているだけで、私たちも、そのシステムを理解していない事もあるので、平等性という観点からも、子育てを楽しめる政策があればいいなと思いました。具体的なものは浮かびませんが、そういうものがあればと感じています。

ですから、「スキンシップのすすめ」を市で力を入れてやってくれていますが、園でも、家庭にこういうこともやりましょう。というのは通信等でお伝えしているのですが、昔、テレビで「おかあさんといっしょ」を見ていたような、子どもと触れ合っただけで、すごく楽しいというところを家庭の中で発信していくことで、子育てが楽しいと思えるように、小学校に行ってしまうと子どもと触れ合う機会もへってしまうので、その4～5年間を大切にしてくれたら良いと思います。

(委員)

今、保育士不足もあり、色々なことを考える中で、親御さんも、学生さんも、必ずスマホで情報を探す時代になってきていると思います。

それを、考えた時、HPを見た学生さんが職場の楽しい雰囲気を感じ取れるように、めばえの子供たちの写真を乗せたり、ボランティアの募集をかけたりしますが、福祉が専門分野の私達では、研修会やZoom会議も含めて、なかなか実践出来ない状況です。そういった所も含めて、研修会等で教えていただく場があればいいのかなと思います。

また、掛川市のHPも含めて、他市のHPを見させていただく機会がありますが、転入される方がこの町は住みやすそうだな、とHPを見て判断することもあると思いますので、その充実をしてもらえたらと考えております。

(委員)

先程、委員から幼児保育の話が出ましたけど、私の勤めている職場でも、お子さんが熱を出した際に、核家族であるため、奥さんと二人で何とかやりくりしながらという職員がいた。

しかも、担任となるとなかなか休暇が取りにくいので、退職したら、そのような状況を手助けしてあげたいと思います。

また、外国人の話もありましたが、本校にも外国人のお子さんが増えていて、日本語が通じない両親との会話を通訳の先生にお願いしていますが、月1回ぐらいしか勤務がないため、通訳の方を増やしていただくと助かります。

また、6年生の児童で、最近、お母さんが第3子を産みまして、現在は入院中です。まだ1歳の妹の面倒を見る人がいなくて、お母さんの出産中は、長女（6年生児童）に面倒を見させている。

お母さんに、他の人に子守を頼めないか聞いてみたのですが、お父さんもパートに出ているため、誰も面倒を見る人がいなくて、入院となって2日間学校を休みました。

その後も動くことが出来ないのので、長女を休ませると連絡があったのですが、それはちょっとということになって、最終的に磐田市に住んでいる自分の妹に手伝いに来てもらい何とか学校に来られるようになった。

たくさんコミュニティがある中で、自分の仲間であったり、支援を受けられる場合はいいのですが、関係が深く取れないような方もたくさんいるので、そこへのサポート、ファミリーサポーターのような助けが必要な方が、たくさんいるということを知っていただきたいと思います。

(委員)

うちの会社は、テレワーク、リモートワークを実践していて、30%位の出社率に抑えようということで、事務部門を中心にリモートワークをする人の割合が増えてきています。そういった中で、



テレワークをする環境整備の充実が上げられます。

小さい子どもがいるお宅も多いため、テレワークを実践している人もたくさんいるのではと思いますが、例えば、子どもを預けてテレワークを出来るような環境があると、新しい生活スタイルと言うことで、大都市圏から人を呼び込むという事になるのではないかと思います。

また、田舎の方は空き屋がありますが、これから学校が統合されて廃校になっていく施設の有効利用として、テレワーク等が実施できるような施設として有効利用できないかと思います。

(委員)

こども園に勤めている立場としては、子どもを育てる楽しさを伝えていくことに力を注いでいけばと思いましたが、先程、「スキンシップのすすめ」の啓蒙の話もありましたけど、コンシェルジュをもっと活用していくことが大事であると思います

先程、吉井先生もおっしゃっていましたが、今、コロナウイルスの影響で、保護者が園の様子を直接、見るのが難しくなっています。

そこで、HPやスマホで動画を流す等で調整できればと考えていますけど、そういうものを園内の関係者以外の一般の方にも見てもらえれば、子どもを預けられる安心感等を伝える事ができるのではと思います。

(委員)

先程の、子供を預ける場所がないということですが、掛川市では、一時預かり事業がなかなか進まなくて、保育園の中で3人までは預かる事が出来ると言っているけど、月初に申し込みがあり、すぐにその枠も埋まってしまうのが現状です。今まで一時預かりを実施していた保育園も、もうやめたと聞くことがあります。

やはり、家庭でお子さんの面倒を見ているお母さんは、参観会へ行きたくても、子供を連れて行けないとか、自分が病院に受診したくても預けることができないという現状を聞きます。

先日、お仕事相談会で募集する側としてブースを出したのですが、お子さんが幼稚園や小学校に通っている間は、働きたいという人が多かったです。

そういう方が利用できないかと考えていたのですが、磐田市の支援センターの中に、聖隷が実施しているところがありますが、そこでは、子育て支援センターの中に、支援センターのスタッフと託児をやるスタッフを何人か雇って、広い所で親子が遊べて、その親子の中に今日は託児をしている人も入っている。

ファミリーサポーターのようにお宅を訪問するシステムであると、知っている人であるため使いにくい、頼めないといった現状もあります。そのため、磐田市の様なやり方がいいなと思いましたが、それをパンダ広場で実践しようとする、お金が足りなくなってしまうので、空いている時間を利用して、ファミリーサポーターみたいなものを利用して支援センターの中で託児ができるような仕組みを掛川市でサポートしてくれると助かります。

幼児教育とは違いますが、皆さんが大変困っている現状を見ていると、是非、何かできればと考えております。

(委員)

私は、専門的な立場でスタッフに関わっている訳ではないので、全体的な事になるのですが、コロナウイルス感染症の影響というのは、私たちの生活にかなりドラスティックな影響をもたらしたのではないかと感じていて、2020年の上半期の婚姻数は、やや減少しています。

また、2021年の出生数は、コロナ渦の影響で本格的な減少を迎えるとも言われています。その中で、コロナの社会的な制裁の心的な影響で、人と出会うということに、若者が動かなくなっています。簡単に言ってしまうと、コンパとか飲み会とか行われていなくて、若い子に聞くと、コロナのおかげで、そういったものがないと言われます。

こども政策課の会議で言うのはおかしいかもしれませんが、結婚から定住、出産への一連の流れを見て、婚活の時期、妊活の時期、出産時期があって、子育ての時期と考えたときに、今、子育てに関わっている方が多くいると思いますが、出逢いが無ければ、婚姻数も増えないし、出産も無ければ、今までの0歳児に対する子育てに対する支援が過剰になると考えると、コロナの影響を考えないわけにはいかないのです。

そこで、地方都市にとってチャンスがあるというのは、出逢いが無くて遠距離恋愛が成立しなくなっているで、近場で恋人を探す人も増えてくると思われます。

先日、木曽の方であったのですが、12月ぐらいに木曽の中だけでのコンパを実施する企画がありました。スタンダードプリコーションを講じて、三密を回避して実施するようにはなると思いますが、お客様が減っている飲食店等とタッグを組んで実施するのも、地方都市の地方在住の恋人がいない人をターゲットにする企画も考えていいのではないかと思います。そこで、入り口の婚姻数の増加を狙うことができます。

また、妊娠期、出産期に関しては、具体的に思いつかなかったですが、出産・子育てに関して、母親のうつ症状が、コロナ渦の前と比較して2倍という数字が出ています。その理由として、対面のつながりが無いところで孤独に子育てをしなければならない状況が理由であると考えられます。

そこで、孤独さという点で助けになるのは、父親のサポートになると思います。

後半で意見を挙げさせていただいたのですが、父親の支援、父親の教育を図っていくような、例えば、父親クラブであったり、あまりお金をかけない形で、父親の組織みたいなものを作ってみるのが大事であると思いました。

いずれにしても、母親支援も父親支援も繋がりや絆という点では、オンラインでは難しい部分もありますので、先程、伊藤委員もおっしゃるとおり、対面ということが如何に大事かをコロナにより思い知らされたというのがあったのではと思いました。

ただ、対面の機会を設けるのは難しい部分もありますので、絶対にやらなければいけない検診の機会を活かして、また、出産した病院とタッグを組んで、病院の中で繋がりを築いていく、一度繋がりを築いてしまえば、その後はオンラインでも良いため、何らかの形で、始めのきっかけのタイミングだけ、病院や市内の行政等に作っていただけると良いと思います。

#### (委 員)

支援センター等が訪問して相談をしていくと書かせていただきましたが、ニーズも悩み等も個々で多様化して違っており、本当に悩んでいる人は相談しないのではと書かれているとおりで、対面がいい人がいるかもしれないし、オンラインがいい人もいるかもしれないので、個々の状況に応じた相談をしていけばいいと思います。

子育て支援センターに関しては、受身で待つのではなく、積極的にアプローチしていけばいいのではないかと思います。

先程、委員から空き家ということがありましたけど、出生率の向上を図るための施策として、住まい対策、住む場所の確保が必要になるのではと思います。既に、掛川市でも実施しているとは思いますが、勉強不足で、あまり知識がなくて詳細がわからなくて、住まいの確保という意味で、若い人でも家を持てるような支援をすることが、子育ての環境、子供を産みやすい環境に繋がるのではと思います。

それから、事業所としては、人の確保、保育士の確保が難しくなっているところなので、コストもかかりますので、そこへの支援も考えていただけたらと思います。

最後に、今まで、皆さんが言っていたとおりでですけど、子育ての問題だけでは、解決できない、生活支援全般全体での支援が必要な時代になってきています。

掛川市には、ふくしあという組織が市内5箇所にありますので、そういった所と連携、活用しながら家庭全体について考えていく必要があると思います。

ですから、子育て支援センターが、まち協と連携を取りながら情報を連携して、相談に乗り、色々な支援も出来るような体制が取れたらいいと思います。

#### (会 長)

ありがとうございました。問題と言いましょか、コロナに端を発しているという事ですけど、今、委員が、最後にまとめてくださいましたけど、広い視点でみないと、一つ、二つの視点で見るとは難しいことなのだと思います。

もしかすると、細菌学的にも、免疫ができて風邪とそんなに変わらない状況になるかもしれないし、あるいは、油断していると、とんでもない事になってしまう可能性もありますが、今の所は、予断を許さない状況であります。

特別な人が対象ではなく、場合によっては全ての人が、体験、経験、感染するという事におい

ては、誰でも可能性があるというのが課題だったのではないかと思います。

短い時間の中で全てを話す事は出来ませんが、今日、皆様からいただいた御意見は、色々な点で、今後、参考になることが多かったのではないかと思います。

先程、委員と立ち話をする機会がありました。

その会話の中で、今日集まった全員がマスクを着用しているように、マスクを着用する事が当たり前になっていますが、子供達にとっては、マスクを着用する事がとても負担になっている。

顔全体が見えず、表情が見えない状況であり、マスクを取ったらこんな顔だったんだという事にもなりかねない。

マスクを着用すること自体は良いことで、自分の細菌をまき散らさない様に、最小限に抑えるという意味では良いかもしれませんが、相手からの細菌を防ぐという役割はゼロです。もしかしたら、この空気中にもウイルスが飛んでいるかもしれません。そのような状況の中で子供に与える影響が本当はあるのではないかと、ということをお話しました。

最後に、一つだけ紹介します。

今、事ある毎に消毒を実施している。その影響か、園で感染症が全くないそうですが、これは果たして、いいことなのか？

無菌状態になっているため、いざ何かあった時に全く抵抗力がないため、この状態が終わって、解放状態になった時に、急に何か出てくるのではという不安があります。

今、感染に対して敏感になっている状態の時に、この話は出来ませんが、どこかでこの問題も考えておかなければならないのではないかと思います。

委員から言っていたので、代行で紹介させていただきました。

予定の時間を少しオーバーしましたが、皆様からいただいた意見を、是非、市でも積極的に活用していただいて、色々な形で活かしていただけるようお願いしたいと思います。

皆様、ありがとうございました。

(事務局)

- ・「かけがわ教育の日」特別企画「『保育士・幼稚園教諭になってよかった』とを感じるエピソード」の募集について説明
- ・「掛川流スキンシップのすすめ」について説明